

安心・安全な 職場に向けて



社会福祉法人 朝倉恵愛会
特別養護老人ホーム 宝珠の郷



アセスメント・プランニング

- ノーリフティングケアの視点をケアプランに取り入れる
- 職員全員がそれぞれの利用者様にあった適切な福祉用具を使用できるようにアセスメントし、ケアプランに反映させた。半年に1回、または新規入所者様毎に見直しを実施。
- 福祉用具管理表を作成し、福祉用具の種類・数の把握を行い、ケアプランへ反映している。



施設概要

- 社会福祉法人 朝倉恵愛会
- 特別養護老人ホーム宝珠の郷
～あなたの“想い”と“生きる”を手伝う～
- 〈特養〉 〈短期入所〉
- 定員：50名 19名
- 平均年齢：90.8歳
- 平均介護度：4.12
- 〈職員〉
- 常勤換算数：38.20人
- 平均年齢：49.8歳



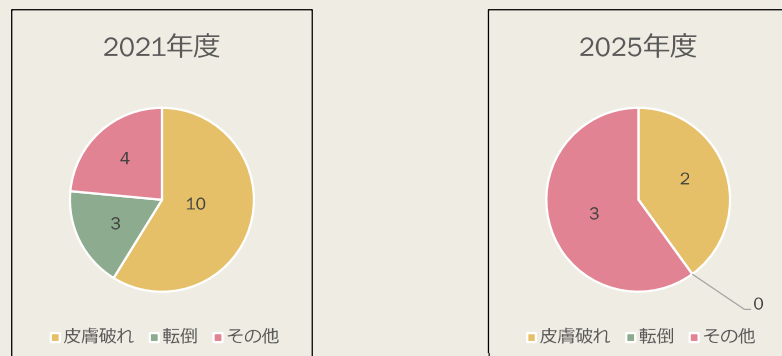
ラウンドとリスクマネジメント



- 毎月第3金曜日に委員会メンバーでラウンドを行うようにしているが、人員不足により実施できない時がある。
来年より委員会メンバーに加え、ラウンドする部署の主任も一緒にラウンドし、改善点を挙げていく。
- ノーリフティング委員会で低減策を検討していたが、委員会の時間をなかなか確保できずに十分に検討できていなかった。また、それぞれの環境にあった低減策を検討できているか不安があった。今年度から、各部署で検討してもらうように変更する事で環境に応じた低減策を検討、実践できるようになった。
- 腰痛ヒヤリハットは毎月、委員会メンバーで何度も挙がるヒヤリについて低減策の検討を各部署で話し合いを行ってもらい、1カ月後に評価を行っている。
- P D C Aサイクルを少しずつ実践できるようになってきている。



移乗時の事故件数の比較



移乗時の事故の件数が17件 ➡ 5件へ減少。



教育と福祉用具導入に向けて

- ノーリフティングケア技術の伝達は出来てきているが、移行がまだ十分にできていない。福祉用具についても、職員によって使用している人といない人がいる。実際に利用者を介助するのは、職員を相手に練習するのと違って身体の状態も違うので難しく苦手意識が出てしまうとの意見もあり、利用者を対象とした技術の伝達も必要だと感じている。
- 車椅子等の福祉用具が十分に揃っていない。デモは行っているが、予算の問題もあり購入には至っていない。また、経年劣化により更新が必要な物もあり。

必要な福祉用具の検討と数の把握を行っている。

今年度、ベッドの買い替え予定。



ご利用者M様のリフト使用後の変化

M様



2025年2月短期入所。同年3月本入所。

短期入所時より拘縮強くスライディングボード等での移乗も困難だった。当施設は1つしかリフトがなく、M様が入所したフロアにはなかった為、最初は抱え上げでの移乗を行っていたが、全体重がかかり職員・利用者様共に負担が大きかった。

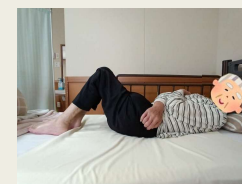
また、利用者様の脇等への内出血の恐れあり。

カンファレンスを行い、リフトでの移乗を行うために居室移動を実施。

右傾き、両膝の間が開かない



リフトで移乗を行うと共に、リフトを使用した座位訓練を実施。少しずつだが足が伸びるようになり、両膝の間の拘縮もゆるくなってきた。
最初は目を閉じていることが多かったが、段々と目を開けられ、声かけに会話をされる日が増えてきた。
下肢の拘縮がゆるくなってきたことでオムツ交換が楽になり、かかる時間も早くなった。



ケア方法の統一

■ ピクトグラムを作成

各ベッドに設置済み。各利用者様が使用する福祉用具(車椅子の形態、移乗手段等)を掲示することにより、担当階でない職員でも移乗方法は何か、どの福祉用具を使用すればよいか、体位変換が必要かわかるようになり、介助方法の統一ができるようになった。



■ リンクスタッフを毎年少しずつ増員中で、現在5名。

それにより、通常業務内や有事の際でも技術指導が可能になった。

来年度も増員予定



職員の声



- 無理して行う介護は終わったと思えるようになり、腰痛の原因にならないように気をつけるようになった。身体的負担が減った。妊婦さんでもできることが多くなった。
- 技術伝達により新しい介護技術の習得ができた。実践により介助が楽になった部分がある。利用者様へのリハビリ意識が向上している。
- 大判タオルでの2人介助からフレックスボードへ変更したことにより、利用者様への身体的衝撃が減った。
- スケジュールの大幅な変更が追い付いていないため、慌ただしい。時間がかかる。
- 福祉用具がそろっていないため利用者に還元できていない。中腰姿勢になることがまだまだ多い。

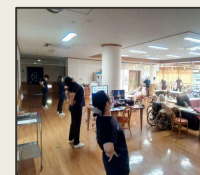


腰痛体操

■ 腰痛予防体操として取り組んでいるラジオ体操が定着してきた。

全館放送での呼びかけを中止したが、体操をする日にバラつきが出るようになってきた。

呼びかけを再開。



■ 腰痛ヒヤリハットは毎日のワンポイントタイムの際に出ているが、今ある腰痛についてのヒヤリが多く、腰痛になる恐れのある業務や環境についてはあまり出てこない。

声掛けを継続。



今後の課題



- リンクスタッフをもっと活用できるように委員会にて役割の検討。
- ノーリフティングケアがしっかりと定着していくように、技術伝達の継続と介護方法のラウンドを行い、改善策の検討と指導。
- 福祉用具のデモを活用し、必要な物については早急に購入できるように報告書の作成。
- ノーリフティングケア移行へ向けて、居室移動の検討や業務スケジュールの見直しが必要。

